



一ぶっかつのカイレンー #7

新幹線変形ロボ
シノカリオン Z
THE ANIMATION

カイレンのあまりのつよさに アプトとハナビは とまどうばかりだった。
そのとき ぶたりのもとに けんきゅういんの三島ヒビキから れんらくが**はい**入る。
『カイレンが ぶっかつしたりゆうが はんめいしました!』

いち 1ねんまえに シンやアプトたちがたおした アラバキがかかわっている——
ヒビキは そうせつめいする。
そのアラバキが カイレンのからだをつかって ぶっかつしてしまったようだ。
「なあ……それってゾンビってヤツなんじゃねえのか……?!」
ハナビが おもわずゴクリと いきをのむ。
「もう どうすることも できないのか……!？」
アプトが くやしそうにつぶやいた そのときだった——

「だったら じょうぶつさせてやらないとな!」

メキシコにりゆうがくしていたシンとスマットが かけつけたのだ!
「シン! スマット! きてくれたのか!!」
おもいがけないことに アプトはおどろきと よろこびのこえを**あ**上げる。
「ああ! オレたちの力を みせてやろうぜ!!」
シンは**ちから**カづよく いいはなつ。
そのすがたは きぼうのひかりに みちあふれていた。